

# 現実の自己像，異性に呈示する自己像， 異性が抱く理想像のずれ

戸塚唯氏・森 大介・児玉真樹子・深田博己

Discrepancies of real self-image, self-image appealing to opposite sex,  
and ideal-image cherished by opposite sex

Tadashi Tozuka, Daisuke Mori, Makiko Kodama, and Hiromi Fukada

本研究の目的は、現代大学生の現実の自己像、大学生が異性に呈示する自己像、異性が抱く理想像のずれを検討することであった。大学生 278 名（男性 139 名、女性 139 名）に対して、30 の性格特性とその他の 9 特性を呈示して、①それらの特性がどの程度自分に当てはまるか（現実得点）、②それらの特性をどの程度意中の異性に呈示したいと思うか（アピール得点）、③それらの特性を意中の異性にどの程度望むか（理想得点）を評定させた。その結果、①男女とも現実の特性に顕著な差はないが、異性にはその性に一致した特性を求めており、異性の理想に応じたアピールしたいと思っているということ、②男女とも現実にもっている以上の水準で各特性をアピールしたいと考えているが、異性から求められている水準はさらに高い、ということが明らかとなった。

キーワード：恋愛，魅力，現実の自己像，呈示する自己像，理想の異性像

## 問題

### 大学生における恋愛の重要性

大学生にとって恋愛は大きな関心事である。例えば詫摩（1986）は、青年心理学で扱われる 25 種類のテーマのうち大学生がどれに関心をもっているかを調査し、「恋愛と結婚」が大学生にとって 2 番目に関心のあるテーマだということを明らかにしている。恋愛とは性的に魅力を感じる対象に対する肯定的な感情である（飛田，1999）。社会心理学において恋愛は様々な視点から研究されてきた。例えば、恋愛と好意の違い（e.g., Rubin, 1970; Sternberg, 1987）、魅力を感じる異性の特性（e.g., 詫摩, 1973; Walster, Aronson, Abrahams, & Rottmann, 1966）、嫉妬（e.g., 深沢・篠崎・越川, 1991）、恋愛の段階（e.g., 松井, 1993, 2000）、失恋の影響（e.g., 鳴島, 1994）などである。なかでも、恋愛関係の形勢を目的とした意中の相手へのアプローチに関する研究が近年増加している。

例えば、樋口・磯部・戸塚・深田（2001）は告白（恋愛関係を形成することを意図して、相手に対する自分の好意を伝達すること）の言語的方策に関する研究を、また栗林（2000）は告白時の状況に関する研究を、さらに菅原（2000）は告白行動の促進・抑制に関わる要因に関する研究を行っている。しかし、恋愛関係成立のためのアプローチは、告白だけではない。告白の前段階に、相手に自分の長所をアピールする段階が存在するだろう。例えば、男性が意中の女性に頼りがいのあるところをアピールしたり、女性が意中の男性に自分のやさしさをアピールしたりするのは比較的良く見受けられることであり、そしてこのようなアピールの仕方も恋愛関係の成立に大きな影響を与えていると思われる。本研究はこのような恋愛関係の形成を目的とした自己アピールに注目する。

恋愛関係の形成を意図して自己の特性を相手にアピールする場合、異性から求められている特性をそのままアピールするのが、もっとも効果的であると思われる。では実際に人々は「異性から求められる特性」を正確に把握し、そしてそのような特性をアピールしているのだろうか。もし「異性から求められる特性」と「異性にアピールしたいと考える特性」の程度に大きなずれがあるとしたら、人々は恋愛関係の成立を望みながら、誤った特性をアピールしていることになる。また、「異性にアピールしたいと考える特性」と「現実自分がもっている特性」が一致しているならば、アピールによる葛藤は生じないであろうが、矛盾しているならば、誇張したアピールは葛藤を生じさせるであろう。これらのずれの様相を明らかにすることは、恋愛関係形成時における人々の失敗を低減させ、ひいては人々の恋愛に関する悩みを低減させることにつながると思われる。そこで本研究は、恋愛に大きな関心をもっていると思われる大学生を対象に、「現実自分が持っている特性（現実の自己像）」、「異性にアピールしたいと考える特性（異性に呈示する自己像）」、「異性から求められる特性（異性が抱く理想像）」を明らかにした上で、これらの間のずれを検討する。

## 先行研究

詫摩（1961）は、大学生・短期大学生を対象に、どのような性格の男性（女性）が異性に好かれるかを調査した（いくつかの性格特性の中から、あてはまるものを選ばせた）。その結果、男性は女性に好かれる男性の特性として、「明朗」、「誠実」、「さっぱりしている」などの特性を多く選んでおり、女性は男性に好かれる女性の特性として「明朗」、「控えめで静か」、「やさしい」などを多く選んでいた。

詫摩（1973）は、1972年、都内の大学生を対象に、異性からどのような同性が好まれるか、どのような異性を好むかを調査した（いくつかの性格特性の中から、あてはまるものを選ばせた）。その結果、男性は女性に好かれる男性の特性として、「明朗」、「やさしい」、「誠実な」などの特性を多く選んでおり、女性は男性に好かれる女性の特性として「明朗」、「やさしい」、「思いやりがある」などを多く選んでいた。また男性は好ましい女性の特性として、「明朗」、「やさしい」、「おおらかな」という特性を多く選んでおり、女性は好ましい男性の特性として「やさしい」、「明朗」、「思いやりがある」などを選んでいた。

松井・江崎・山本(1983)は、1982年、大学生と都内の会社員を対象に、異性から見てどのような同性が魅力的だと思うか(①)、もっとも魅力を感じる異性はどのような人であるか(②)を調査した(いくつかの性格特性の中から、あてはまるものを選ばせた)。男性は女性に好かれる男性の特性として、「思いやりのある」、「生き生きとした」、「エネルギッシュな」などの特性を多く選んでおり、女性は男性に好かれる女性の特性として「思いやりのある」、「明朗な」、「清潔な」などを多く選んでいた。また男性は好ましい女性の特性として、「明朗な」、「清潔な」、「素直な」などという特性を多く選んでおり、女性は好ましい男性の特性として「思いやりのある」、「やさしい」、「誠実な」などを選んでいた。また①の質問に関して男性(女性)が選んだ特性の順番と、②の質問に関して女性(男性)が選んだ特性の順番の順位相関係数は非常に高く、 $r_s = .86$  (.89)であった。

### 先行研究のまとめと本研究の目的

先行研究の結果から、大まかには、「男性が女性に求められていると推測する性格特性の種類」と「実際に女性が男性に求めている性格特性の種類」は類似しており、「女性が男性に求められていると推測する性格特性の種類」と「実際に男性が女性に求めている性格特性の種類」も類似していることが明らかとなった。この結果から、男性も女性も、比較的異性の理想を正しく推測していることができる。「異性に求められていると推測する性格特性」が「異性にアピールしている特性」と同じと考えられるならば、大学生は概ね適した種類の特性をアピールしているといえるだろう。一方で、これらの研究では「現実自分が持っている特性」が測定されておらず、「現実の男性(女性)がもっている特性」と「男性(女性)がアピールしたいと考えている特性」のずれ、「現実の男性(女性)がもっている特性」と「女性(男性)が男性(女性)に求めるの特性」の間のずれは全く明らかになっていない。しかしながら、これらの比較は恋愛関係の形成の全体像を明らかにする上で重要であると思われる。

またこれらの研究は、被調査者が各特性を選択した割合を明らかにしているが、各特性が「どの程度」自分に当てはまるか、各特性を「どの程度」相手に求めるかということは明らかになっていない。例えば松井ら(1983)は「あなたが最も魅力を感じている男性はどんな人ですか」と尋ね、61.5%の女性が特性リストの中から「思いやりのある」という特性を選択していることを明らかにしている(重複回答可)が、女性が男性にどの程度の水準の思いやりを求めているのかは明らかにしていない。そしてこのように各特性を質的に測定しているため、現実の特性、アピールする特性、異性から求められる特性の程度の比較が全くなされていない。さらに、近年は急速に価値観の多様化、ユニセックス化が進んでおり、これらの先行研究(1960, 70, 80年代の研究)の結果が、今日の大学生には当てはまらない可能性がある。

そこで本研究は、恋愛に大きな関心をもっていると思われる大学生を対象に、「現実自分が持っている特性(現実の自己像)」、「異性にアピールしたいと考える特性(異性に呈示する自己像)」、「異性から求められる特性(異性が抱く理想像)」を明らかにした上で、これらのずれを検討する。

## 方法

### 被調査者と調査手続き

**被調査者** 被調査者は広島県内の大学生 294 名であった。このうち、回答に不備のあるものを除き、男女の数を等しくするために男性 2 名のデータを削除した結果、最終的な分析対象者は 278 名（男性 139 名、女性 139 名）となった。

**調査手続き** 調査は、調査者および調査協力者が被調査者に質問紙を個別に配布して行った。質問紙は男性用と女性用の 2 種類が存在した。どちらの質問紙も、教示は質問紙の表紙で行った。また質問紙は、その場で、あるいは後日に回収した。調査時期は、2002 年 11 月～12 月であった。

### 特性リスト

本研究で用いた特性リストは、性格特性とその他の特性からなっていた（計 39 特性）。このうち、性格特性に関しては、伊藤（1978）の M-H-F 尺度にあげられている特性を利用した。M-H-F 尺度は、本来、個人の性役割に関する価値観を測定するものであるが、この尺度では計 30 の性格特性が男性性特性 (Masculinity; 10 特性)、女性性特性 (Femininity; 10 特性)、人間性特性 (Humanity; 10 特性) に分類されており、この分類がアピールしたい自己の性格特性や理想の異性に求める性格特性を考察する上で有用であると思われたため、本研究で利用することとした（これらの性格特性に関しては表 1 を参照）。また、異性にアピールしたい特性や異性に求める特性は性格特性だけでないと考えられたことから、その他の特性として、外見（顔がいい、スタイルがいい）、趣味（趣味が多様である、熱中できる趣味がある）、経済力（経済的に余裕がある）、政治的態度（世界情勢に関心がある）、宗教的態度（先祖を大切に思っている）、ボランティア活動（ボランティア活動をしている）、生活力（料理が得意である）の 9 つをリストに加えた。

### 測定項目

**現実の自己の特性** 被調査者に特性リストを呈示し、それぞれの特性が現実の自分にどの程度当てはまるかを 4 段階で評定させた（全くあてはまらない 1 点～非常に良くあてはまっている 4 点）。以下本研究では、この得点を現実得点と表記する。男性性特性（10 特性）、女性性特性（10 特性）、人間性特性（10 特性）における現実得点の  $\alpha$  係数は、男性では順に、.86、.70、.76 であり、女性では順に、.87、.76、.79 であった。

**アピールしたい自己の特性** まず、被調査者に「自分には好きな相手がいる、その人と親密になりたいと望んでいる状況」を想定させた（好きな相手は、男性用の質問紙では女性とし、女性用の質問紙では男性とした）。その上で、被調査者に特性リストを呈示し、それぞれの特性をどの程度相手にアピールしたいかを 4 段階で評定させた（全くアピールしたくない 1 点～非常に良くアピールしたい 4 点）。なおこの評定に当たっては、その特性を実際には被調査者がもっていない場合でも、持っているとして仮定して答えるように指示した。以下本研究では、この得点をアピール得点と表記する。男性性特性、女性性特性、人間性特性におけるアピール得点の  $\alpha$  係数は、男性

では順に、.86, .72, .77であり、女性では順に、.84, .73, .81であった。

**理想の異性に求める特性** 被調査者に同上の特性リストを呈示し、それぞれの特性が被験者の理想とする異性にどの程度当てはまっているかを4段階で評定させた（全くあてはまらない1点～非常に良くあてはまる4点）。以下本研究では、この得点を理想得点と表記する。男性性特性、女性性特性、人間性特性における理想得点の $\alpha$ 係数は、男性では順に、.80, .75, .76であり、女性では順に、.81, .67, .76であった。

## 結果と考察

本研究の目的は、現代の大学生を対象に、現実の自己がもっている性格特性、異性にアピールしたい性格特性、異性に対して求める性格特性の間のずれを検討することであった。

### 現実得点、アピール得点、理想得点における性差（分析1）

各特性の現実得点、アピール得点、理想得点における性差を明らかにするために、それぞれの得点について $t$ 検定を行った（表1）。

**現実得点** まず男性性特性に関しては、「指導力のある」、「信念を持った」、「頼りがいのある」という特性において、男性の方が女性よりも得点が大きかった。なかでも「指導力のある」という特性の $t$ 値は現実得点に関して最も大きく、平均点の差は0.5を超えていた。このことから、男性は女性よりも自分の指導力に関する自信を、多くもっていることが示唆される。一方で、男女で有意差が見られない男性性特性も7つ存在した。「冒険心に富んだ」、「たくましい」、「大胆な」、「行動力のある」、「自己主張のできる」、「意思の強い」、「決断力のある」である。

次に女性性特性に関しては、男性性特性や人間性特性に比べて、男女とも得点が全体的に低かった（男性における男性性特性平均2.37、女性性特性平均1.97、人間性特性平均2.59；女性における男性性特性平均2.21、女性性特性平均1.94、人間性特性平均2.46）。これは男女とも女性性特性が自分に少ないと考えていることを意味している。男性のみならず、女性もそのように考えていることは注目に値する。特に「優雅な」、「静かな」という特性に関しては、女性よりも男性の方で得点が大きかった（女性の方で得点の高かった項目は「従順な」という特性だけであった）。

人間性特性に関しては、男性性特性や女性性特性に比べて、男女とも得点が全体的に高かった。これは男女とも人間性特性が自分に多いと考えていることを意味している。特に「明るい」という特性の得点は高く、男性は3.00点、女性は2.99点であった（質問紙において3点に相当する質問段階のラベルは「かなり当てはまっている」）。男女とも多くの人が自分のことを明るいと考えているという結果は興味深い。一方、有意差のあった特性は少なく、「頭の良い」、「視野の広い」のみであった（男性の方で得点が大きかった）。

その他の特性に関しては、「スタイルがいい」、「熱中できる趣味がある」、「世界情勢に関心がある」という特性では男性の方で得点が大きく、「料理が得意」という特性では女性の方で得点が大きかった。また「顔がいい」、「スタイルがいい」という外見に関する特性の得点は比較的低く、

表1 現実得点, アピール得点, 理想得点に関する性ごとの平均, および *t* 検定結果

特性	現実自己得点					アピール得点					理想得点							
	男性		女性			男性		女性			男性		女性					
	M	SD	M	SD	<i>t</i>	<i>p</i>	M	SD	M	SD	<i>t</i>	<i>p</i>	M	SD	M	SD	<i>t</i>	<i>p</i>
1 冒険心に富んだ	2.17 (0.93)		2.22 (0.86)		0.54	ns	2.37 (0.89)		2.11 (0.66)		2.84	**	2.09 (0.90)		2.82 (0.82)		7.10	**
2 たくましい	2.22 (0.95)		2.35 (0.98)		1.18	ns	2.91 (0.86)		1.91 (0.87)		9.56	**	1.78 (0.75)		3.36 (0.73)		17.73	**
3 大胆な	2.13 (0.90)		2.11 (0.97)		0.19	ns	2.45 (0.93)		2.09 (0.79)		3.46	**	2.17 (0.95)		2.54 (0.88)		3.40	**
4 指導力のある	2.23 (1.03)		1.71 (0.76)		4.84	**	2.47 (0.93)		1.69 (0.72)		7.87	**	1.84 (0.76)		2.87 (0.91)		10.22	**
5 信念を持った	2.76 (1.03)		2.50 (0.87)		2.27	*	3.11 (0.95)		2.86 (0.91)		2.26	*	3.01 (0.85)		3.44 (0.73)		4.54	**
6 頼りがいのある	2.37 (0.92)		1.99 (0.87)		3.55	**	3.19 (0.88)		2.35 (0.73)		8.70	**	2.19 (0.94)		3.77 (0.46)		17.79	**
7 行動力のある	2.40 (0.94)		2.30 (0.86)		0.86	ns	2.82 (0.93)		2.51 (0.82)		2.93	**	2.55 (0.77)		3.43 (0.64)		10.41	**
8 自己主張のできる	2.54 (0.96)		2.35 (0.91)		1.73	ns	2.73 (0.92)		2.48 (0.81)		2.42	*	2.86 (0.82)		3.24 (0.72)		4.05	**
9 意志の強い	2.60 (0.93)		2.44 (0.89)		1.45	ns	3.10 (0.85)		2.68 (0.86)		4.15	**	2.86 (0.81)		3.26 (0.70)		4.37	**
10 決断力のある	2.33 (0.90)		2.14 (0.89)		1.80	ns	2.74 (0.91)		2.47 (0.82)		2.56	*	2.71 (0.80)		3.35 (0.64)		7.38	**
平均	2.37 (0.63)		2.21 (0.60)		2.22	*	2.79 (0.60)		2.32 (0.52)		7.07	**	2.41 (0.50)		3.21 (0.45)		14.11	**
11 かわい	1.62 (0.87)		1.55 (0.65)		0.70	ns	1.82 (0.73)		2.72 (0.88)		9.22	**	3.45 (0.71)		2.40 (0.85)		11.16	**
12 優雅な	1.57 (0.82)		1.36 (0.60)		2.42	*	1.96 (0.91)		1.80 (0.76)		1.64	ns	2.29 (1.00)		1.70 (0.85)		5.30	**
13 色気のある	1.51 (0.74)		1.40 (0.69)		1.26	ns	1.85 (0.86)		2.06 (0.93)		2.01	*	2.89 (0.93)		1.79 (0.89)		10.09	**
14 献身的な	2.44 (1.00)		2.42 (0.99)		0.18	ns	2.63 (0.99)		2.56 (0.95)		0.56	ns	2.94 (0.88)		2.59 (0.85)		3.33	**
15 愛嬌のある	2.40 (0.95)		2.58 (0.90)		1.56	ns	2.71 (0.89)		3.07 (0.87)		3.47	**	3.30 (0.79)		3.06 (0.86)		2.48	*
16 言葉使いのいいいな	2.09 (0.97)		1.94 (0.87)		1.30	ns	1.96 (0.91)		2.05 (0.81)		0.83	ns	2.27 (0.94)		2.20 (0.88)		0.66	ns
17 繊細な	2.27 (1.06)		2.29 (0.95)		0.18	ns	2.01 (0.81)		2.29 (0.77)		2.95	**	2.37 (0.85)		1.86 (0.71)		5.34	**
18 従順な	2.08 (0.88)		2.34 (0.90)		2.43	*	1.84 (0.84)		2.11 (0.91)		2.53	*	2.40 (1.04)		2.10 (0.85)		2.66	**
19 静かな	1.96 (0.99)		1.62 (0.80)		3.20	**	1.62 (0.75)		1.42 (0.63)		2.35	*	1.71 (0.79)		1.41 (0.56)		3.67	**
20 おしゃれな	1.81 (0.76)		1.86 (0.75)		0.63	ns	2.29 (0.94)		2.62 (0.91)		3.00	**	2.87 (0.92)		2.68 (0.92)		1.76	ns
平均	1.97 (0.47)		1.94 (0.46)		0.68	ns	2.07 (0.46)		2.27 (0.46)		3.65	**	2.65 (0.50)		2.18 (0.42)		8.56	**

男性性特性

女性性特性

表1 現実得点, アピール得点, 理想得点に関する性ごとの平均, および *t* 検定結果 (続き)

特性	現実自己得点					アピール得点					理想得点							
	男性		女性		<i>t</i>	<i>p</i>	男性		女性		<i>t</i>	<i>p</i>	男性		女性			
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>			<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>			<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
人間性特性	2.53 (0.96)	2.36 (0.92)	1.54 <i>ns</i>	2.76 (0.90)	2.22 (0.82)	5.29 **	2.52 (0.87)	2.99 (0.75)	4.79 **	2.57 (0.94)	2.37 (0.81)	1.84 <i>ns</i>	3.25 (0.82)	2.98 (0.82)	2.78 **	3.41 (0.76)	3.63 (0.56)	2.70 **
	2.10 (0.97)	1.68 (0.75)	4.00 **	2.29 (0.90)	1.94 (0.79)	3.40 **	2.53 (0.91)	2.78 (0.91)	2.31 *	3.00 (0.86)	2.99 (0.89)	0.07 <i>ns</i>	3.30 (0.79)	3.32 (0.76)	0.23 <i>ns</i>	3.63 (0.64)	3.55 (0.67)	0.91 <i>ns</i>
	2.63 (0.86)	2.48 (0.80)	1.51 <i>ns</i>	3.15 (0.80)	3.06 (0.88)	0.93 <i>ns</i>	3.46 (0.73)	3.64 (0.64)	2.18 *	2.60 (0.89)	2.68 (0.86)	0.75 <i>ns</i>	3.13 (0.86)	3.12 (0.83)	0.14 <i>ns</i>	3.14 (0.86)	3.47 (0.66)	3.53 **
	2.83 (0.99)	2.85 (0.99)	0.12 <i>ns</i>	2.58 (1.06)	2.42 (0.88)	1.35 <i>ns</i>	3.22 (0.81)	3.45 (0.73)	2.41 *	2.62 (0.95)	2.68 (0.90)	0.52 <i>ns</i>	2.76 (0.78)	3.18 (0.84)	4.29 **	3.31 (0.71)	3.12 (0.76)	2.13 *
	2.68 (1.04)	2.46 (0.98)	1.84 <i>ns</i>	3.14 (0.94)	2.86 (0.80)	2.61 **	3.06 (0.84)	3.45 (0.67)	4.24 **	2.68 (1.04)	2.46 (0.98)	1.84 <i>ns</i>	2.81 (0.93)	2.66 (0.83)	1.36 <i>ns</i>	2.75 (0.91)	3.33 (0.71)	5.97 **
	2.32 (0.92)	2.04 (0.83)	2.67 **	2.92 (0.51)	2.78 (0.50)	2.33 *	2.75 (0.91)	3.33 (0.71)	5.97 **	2.32 (0.92)	2.04 (0.83)	2.67 **	2.92 (0.51)	2.78 (0.50)	2.33 *	3.10 (0.46)	3.34 (0.40)	4.59 **
平均	2.59 (0.52)	2.46 (0.52)	2.07 *	1.86 (0.86)	2.12 (1.01)	2.37 *	3.04 (0.89)	2.42 (0.95)	5.61 **	1.50 (0.65)	1.49 (0.68)	0.18 <i>ns</i>	1.83 (0.86)	2.06 (1.00)	1.99 *	3.01 (0.92)	2.40 (0.94)	5.54 **
その他の特性	1.58 (0.78)	1.32 (0.54)	3.22 **	2.22 (1.05)	2.35 (0.89)	1.05 <i>ns</i>	2.35 (0.92)	2.47 (0.88)	1.07 <i>ns</i>	2.06 (1.06)	1.86 (0.76)	1.75 <i>ns</i>	2.80 (1.06)	2.63 (0.96)	1.42 <i>ns</i>	2.74 (0.97)	2.91 (0.85)	1.52 <i>ns</i>
	2.70 (1.16)	2.17 (1.01)	4.02 **	1.60 (0.80)	1.45 (0.73)	1.72 <i>ns</i>	1.76 (0.92)	2.09 (0.91)	3.01 **	1.58 (0.80)	1.53 (0.74)	0.47 <i>ns</i>	1.60 (0.80)	1.45 (0.73)	1.72 <i>ns</i>	1.76 (0.92)	2.09 (0.91)	3.01 **
	1.83 (0.99)	1.59 (0.80)	2.27 *	1.71 (0.91)	1.63 (0.76)	0.79 <i>ns</i>	1.73 (0.82)	1.91 (0.82)	1.82 <i>ns</i>	1.83 (0.99)	1.59 (0.80)	2.27 *	1.71 (0.91)	1.63 (0.76)	0.79 <i>ns</i>	1.73 (0.82)	1.91 (0.82)	1.82 <i>ns</i>
	1.90 (0.99)	1.90 (0.90)	0.00 <i>ns</i>	1.64 (0.89)	1.62 (0.70)	0.22 <i>ns</i>	1.84 (0.92)	1.94 (0.88)	0.87 <i>ns</i>	1.90 (0.99)	1.90 (0.90)	0.00 <i>ns</i>	1.64 (0.89)	1.62 (0.70)	0.22 <i>ns</i>	1.84 (0.92)	1.94 (0.88)	0.87 <i>ns</i>
	1.30 (0.72)	1.39 (0.79)	0.95 <i>ns</i>	1.41 (0.65)	1.55 (0.73)	1.73 <i>ns</i>	1.53 (0.65)	1.55 (0.69)	0.27 <i>ns</i>	1.30 (0.72)	1.39 (0.79)	0.95 <i>ns</i>	1.41 (0.65)	1.55 (0.73)	1.73 <i>ns</i>	1.53 (0.65)	1.55 (0.69)	0.27 <i>ns</i>
	1.88 (0.95)	2.13 (0.92)	2.18 *	2.07 (1.04)	2.83 (0.94)	6.40 **	3.40 (0.73)	2.37 (0.97)	9.91 **	1.88 (0.95)	2.13 (0.92)	2.18 *	2.07 (1.04)	2.83 (0.94)	6.40 **	3.40 (0.73)	2.37 (0.97)	9.91 **

注1) 上の *t* 検定の *t* 値は絶対値であり, 自由度は全て276である。

注2) \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$  (両側検定)

注3) 有意に高い得点にアミをかけた。

注4) 男性列は男性のデータ, 女性列は女性のデータである。

男女とも自分の外見については低い評価をしていることが明らかになった。

上述のように、全体的には男性の方で現実得点が高い特性が多いという結果が見いだされたが、本研究における現実得点とは自己評価の得点であることに留意する必要があるだろう。すなわち、自己評価は現実をそのまま反映しているわけではないということである。例えば、人間性特性の「頭の良い」という特性の得点は男性の方が大きかったが、この結果は男女の実際の頭の良し悪しを必ずしも反映しているわけではない。男性は自分のことをポジティブに評価する傾向があるのかもしれない。今後は、自己評価ではなく他の客観的な手法（他者による評価、各種テストの使用など）によってデータを収集し、男女の比較を行ってみる必要があるだろう。

**アピール得点** 男性性特性に関しては全ての特性において男性は女性よりも得点が高いことが明らかとなった。これは、男性が女性よりも男性性特性をよりアピールしたいと考えていることを示唆している。特に大きな差異が見られたのは（ $t$ 値が大きかったのは）、「たくましい」、「頼りがいのある」、「指導力のある」という特性であった。特に「たくましい」という特性に関しては、男性の現実得点は女性のそれよりも小さかったにも関わらず（ただし有意差はなかった）、男性のアピール得点は女性のそれよりもずっと大きかった。この特性のアピールに関しては、男性はずいぶん無理をしているのかもしれない。

女性性特性に関しては多くの特性において女性は男性よりも得点が高いことが明らかとなった。これは、女性が男性よりも女性性特性をよりアピールしたいと考えていることを示唆している。特に大きな差異が見られたのは（ $t$ 値が大きかったのは）、「かわいい」という特性であった。一方で、女性性特性でありながら、「静かな」という特性は男性の方で得点が大きかった。すなわち、女性は「静かな」という特性を男性よりもアピールしていなかった。

人間性特性に関しては、「忍耐強い」、「心の広い」、「頭の良い」、「自分の生き方のある」という特性において男性は女性よりも得点が高く、「素直な」という特性において女性は男性よりも得点が高かった。なお有意差はなかったものの、「明るい」、「暖かい」、「誠実な」という特性は男女とも平均点が3点を超過しており、男女ともこれらの特性が異性にアピールする上で重要であると考えていることが窺える。

その他の特性に関しては、「顔がいい」、「スタイルがいい」、「料理が得意」という特性において女性は男性よりも得点が高かった。「顔がいい」、「スタイルがいい」という特性に関しては、女性の現実得点は男性のそれよりも小さかったにも関わらず（ただし前者に関しては、有意差はなかった）、女性のアピール得点は男性のそれよりも有意に大きかった。これらの特性のアピールに関しては、女性はずいぶん無理をしているのかもしれない。全体的に、その他の特性のアピール得点は、男性性特性、女性性特性、人間性特性のそれよりも低く、恋愛関係の成立を目的としたアピールにおいて性格特性の重要性が示唆された。

**理想得点** 男性性特性、女性性特性、人間性特性の理想得点に関しては非常に明瞭な結果が得られた。まず男性性特性に関しては、全ての特性において男性よりも女性の得点の方が有意に大きかった。これは男性が女性に望む男性性特性の水準よりも、女性が男性に望む男性性特性の水準の方が高いことを示唆している。なお、ほとんどの男性性特性に関する女性の理想得点は3点



を超えていたが、特に「頼りがいのある」という特性の得点が大きかった ( $M=3.77$ )。女性は男性にこの特性をもっとも多く求めているということができる。

次に女性性特性に関しては、8つの特性において女性よりも男性の得点の方が有意に大きかった。これは女性が男性に望む女性性特性の水準よりも、男性が女性に望む女性性特性の水準の方が高いことを示唆している。なお、女性性特性に関する男性の理想得点の中で特に得点が大きかったのは、「かわいい ( $M=3.45$ )」、「愛嬌のある ( $M=3.30$ )」という特性の得点であった。男性は女性にこの特性をもっとも多く求めているということができるだろう。一方、「言葉使いのていねいな」、「おしゃれな」という特性については、女性が男性に望む水準と女性が男性に望む水準に有意差は見られず、この2つの特性は女性性特性としての意味をすでに失っているのかもしれない。

さらに人間性特性に関しては、多くの特性において男性よりも女性の得点の方が有意に大きかった。これは女性が、男性に対してより多くの人間性特性を望んでいることを示唆している。ただし、ほとんどの人間性特性に関する男女の理想得点は3点を超過しており、女性だけでなく男性も異性に対して、人間性特性を強く望んでいるということが示唆される。

その他の特性に関しては、「顔がいい」、「スタイルがいい」、「料理が得意」という特性において女性よりも男性の得点の方が大きく、「経済的に余裕がある」という特性において男性よりも女性の得点の方が大きかった。詫摩 (1973) は、結婚に当たって男性は女性よりも異性の顔立ち、スタイル、身長を重視し、女性は男性よりも異性の収入、将来性を重視するという結果を報告しているが、本研究の結果によって、これらの傾向は結婚相手を選択するときだけではなく、恋愛相手を選択するときにも重要であることが示唆された。また「顔がいい」、「スタイルがいい」、「料理が得意」という特性に関する男性の理想得点は3点を超過しており、男性はこれらの特性に関して非常に高い水準を女性に求めているということができる。一方、それ以外の特性の得点は比較的 low、「ボランティア活動をしている」、「世界情勢に関心がある」などの特性は、男女とも異性に対して求めていないことが示唆された。

## アピール得点の大きさの順番と異性の理想得点の大きさの順番 (分析 2)

次に、「男性 (女性) がアピールにおいて重視する特性の順番」と「女性 (男性) が重視する異性の特性の順番」の関係を明らかにするために、各特性に、男性 (女性) アピール得点と女性 (男性) 理想得点の順位をつけた上で、それらの間の順位相関係数を算出した ( $N=39$ )。その結果、各特性に関する「男性アピール得点の大きさの順番」と「女性理想得点の大きさの順番」の間の順位相関係数は非常に大きかった ( $r_s=.93$ )。また各特性に関する「女性アピール得点の大きさの順番」と「男性理想得点の大きさの順番」の間の順位相関係数も同様に大きかった ( $r_s=.85$ ) すなわちこの結果は、男性も女性も異性が望んでいる特性を把握し、適切な種類の特性をアピールしていることを意味している。本研究で得られた順位相関係数の大きさは、松井ら (1983) の結果と近い水準のものであった ( $r_s=.86, .89$ )。

### 現実得点、アピール得点、理想得点の間の比較（分析3）

次に、現実得点とアピール得点の差異、アピール得点と異性の理想得点の差異、現実得点と異性の理想得点の差異を明らかにするために、性ごとに  $t$  検定を行った。

**現実得点とアピール得点の比較** 男性の現実得点と男性のアピール得点の比較 (①)、女性の現実得点と女性のアピール得点の比較 (②) を行ったところ、どちらにおいても現実得点よりもアピール得点の方が大きい特性が多かった (表2)。特にその傾向は①の男性性特性において顕著であり、男性は実際の自分以上にこれらの特性をアピールしようとしていることが窺える。一方、いくつかの特性においてはアピール得点よりも現実得点のほうが大きかった。①における「繊細な」、「従順な」、「静かな」、「健康な」、「先祖を大切に思っている」という特性、②における「たくましい」、「従順な」、「静かな」、「忍耐強い」、「健康な」、「先祖を大切に思っている」という特性である。この結果は、男性は前者のような特性を、女性は後者のような特性を、アピールに適さない特性であると考えていることを示唆している。なかでも、男女における「健康な」という特性と女性における「静かな」という特性がアピールに適さない特性と考えられていることは、時代による差異があり興味深い。松井ら (1983) は、異性からみてどのような同性が魅力的だと思うかを被調査者に尋ね、特性リストから当てはまるものを選択させたが、「健康な」という特性を選択した人の割合は男性で 56.1%、女性で 63.2%であった。つまり 1983 年当時には、男女とも「健康な」という特性が異性を魅了する特性であると感じていたが、現代では男女ともそのように感じていないといえることができる。健康であるという特性は、堅実、健全というイメージを連想させるが、現代の大学生はそのようなイメージを相手に与えたいと思わないのかもしれない。また詫摩 (1961) は、どのような性格の女性が男性に好かれると思うかを女性に尋ね、特性リストから当てはまるものを選択させたところ、「控えめで静か」という特性は 2 番目に多く選択されていた。つまり 1961 年当時には、女性は「静かである」という特性が男性を魅了する特性であると感じていたが、現代ではそのように感じていないといえることができる。これはオープンなアメリカ文化が、より日本に浸透した結果なのかもしれない。

**アピール得点と異性の理想得点の比較** 各特性に関して、男性のアピール得点と女性の理想得点の比較 (①)、女性のアピール得点と男性の理想得点の比較 (②) を行ったところ、そのどちらにおいてもアピール得点よりも理想得点の方が大きい特性が多かった (表3)。これは男女とも各特性のアピールが、異性が望んでいる水準に達していないことを意味している。①に関して、特に大きな差異が見られたのは ( $t$  値が大きかったのは)、「健康な」、「頼りがいのある」、「決断力のある」という特性であった。これらの特性に関しては、男性のアピールの水準は女性の理想の水準よりもずっと低いといえるだろう。また②に関して、特に大きな差異が見られたのは ( $t$  値が大きかったのは)、「スタイルがいい」、「顔がいい」、「健康な」、「色気のある」という特性であった。これらの特性に関しては、女性のアピールの水準は男性の理想の水準よりもずっと低いといえることができる。「健康な」という特性に関しては、①②ともアピール得点よりも異性の理想得点の方が大きかったが、先に述べたように男女ともこの特性をアピールしようとしていない (現実得点よりもアピール得点の方が有意に小さかった)。この特性に関するアピールは男

表2 現実得点とアピール得点の *t* 検定結果(性ごと)

特性	現実得点(男)と アピール得点(男) の比較		現実得点(女)と アピール得点(女) の比較	
	<i>t</i> 値	<i>p</i>	<i>t</i> 値	<i>p</i>
男性 性 特 性	1 冒険心に富んだ	2.79 **	ア	1.88 <i>ns</i>
	2 たくましい	8.27 **	ア	5.29 ** 現
	3 大胆な	3.79 **	ア	0.30 <i>ns</i>
	4 指導力のある	3.10 **	ア	0.22 <i>ns</i>
	5 信念を持った	4.17 **	ア	4.89 ** ア
	6 頼りがいのある	9.52 **	ア	4.55 ** ア
	7 行動力のある	5.01 **	ア	2.97 ** ア
	8 自己主張のできる	2.24 *	ア	1.77 <i>ns</i>
	9 意志の強い	5.50 **	ア	2.89 ** ア
	10 決断力のある	4.34 **	ア	4.15 ** ア
平均	7.67 **	ア	2.62 ** ア	
女性 性 特 性	11 かわいい	2.97 **	ア	15.17 ** ア
	12 優雅な	5.11 **	ア	7.25 ** ア
	13 色気のある	4.80 **	ア	8.94 ** ア
	14 献身的な	2.28 *	ア	1.86 <i>ns</i>
	15 愛嬌のある	3.65 **	ア	6.11 ** ア
	16 言葉使いのていねいな	1.39 <i>ns</i>		1.44 <i>ns</i>
	17 繊細な	2.79 **	現	0.08 <i>ns</i>
	18 従順な	2.99 **	現	3.35 ** 現
	19 静かな	3.97 **	現	2.69 ** 現
	20 おしゃれな	7.09 **	ア	12.03 ** ア
平均	2.17 *	ア	9.41 ** ア	
人 間 性 特 性	21 忍耐強い	2.65 **	ア	2.07 * 現
	22 心の広い	8.64 **	ア	7.25 ** ア
	23 頭のよい	2.11 *	ア	3.21 ** ア
	24 明るい	4.70 **	ア	4.66 ** ア
	25 暖かい	7.15 **	ア	6.94 ** ア
	26 誠実な	6.51 **	ア	5.65 ** ア
	27 健康な	2.49 *	現	4.68 ** 現
	28 素直な	1.58 <i>ns</i>		6.40 ** ア
	29 自分の生き方のある	6.03 **	ア	5.38 ** ア
	30 視野の広い	6.40 **	ア	7.73 ** ア
平均	7.91 **	ア	7.57 ** ア	
そ の 他 の 特 性	31 顔がいい	4.75 **	ア	7.62 ** ア
	32 スタイルがいい	3.38 **	ア	8.32 ** ア
	33 趣味が多様である	2.02 *	ア	6.23 ** ア
	34 熱中できる趣味がある	1.13 <i>ns</i>		4.75 ** ア
	35 経済的に余裕がある	0.38 <i>ns</i>		1.30 <i>ns</i>
	36 世界情勢に関心がある	1.49 <i>ns</i>		0.64 <i>ns</i>
	37 先祖を大切に思っている	3.85 **	現	4.24 ** 現
	38 ボランティア活動	1.55 <i>ns</i>		2.05 * ア
	39 料理が得意	2.46 *	ア	8.06 ** ア

注1) 上表の結果は、全て対応のある *t* 検定のものであり、自由度は全て138である。また上表の *t* 値は絶対値である。

注2) 列見出しにおける(男)、(女)は、それぞれ男性データ、女性データを示す。

注3) 各 *t* 検定において、現実得点の方が大きかった場合には「現」と、アピール得点の方が大きかった場合には「ア」と記した。

注4) \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$  (両側検定)

表3 アピール得点と理想得点の *t* 検定結果(性ごと)

特性	アピール得点(男)と理想得点(女)の比較		アピール得点(女)と理想得点(男)の比較	
	<i>t</i> 値	<i>p</i>	<i>t</i> 値	<i>p</i>
男性 特性	1 冒険心に富んだ	4.36 **	理	0.23 <i>ns</i>
	2 たくましい	4.73 **	理	1.33 <i>ns</i>
	3 大胆な	0.86 <i>ns</i>		0.75 <i>ns</i>
	4 指導力のある	3.60 **	理	1.70 <i>ns</i>
	5 信念を持った	3.24 **	理	1.44 <i>ns</i>
	6 頼りがいのある	6.88 **	理	1.57 <i>ns</i>
	7 行動力のある	6.37 **	理	0.38 <i>ns</i>
	8 自己主張のできる	5.08 **	理	3.90 ** 理
	9 意志の強い	1.71 <i>ns</i>		1.87 <i>ns</i>
	10 決断力のある	6.49 **	理	2.44 * 理
平均	6.59 **	理	1.50 <i>ns</i>	
女性 特性	11 かわいい	6.12 **	理	7.61 ** 理
	12 優雅な	2.52 *	ア	4.58 ** 理
	13 色気のある	0.55 <i>ns</i>		7.43 ** 理
	14 献身的な	0.32 <i>ns</i>		3.41 ** 理
	15 愛嬌のある	3.37 **	理	2.31 * 理
	16 言葉使いのていねいな	2.21 *	理	2.12 * 理
	17 繊細な	1.57 <i>ns</i>		0.81 <i>ns</i>
	18 従順な	2.56 *	理	2.52 * 理
	19 静かな	2.63 **	ア	3.36 ** 理
	20 おしゃれな	3.48 **	理	2.29 * 理
平均	2.10 *	理	6.60 ** 理	
人間 特性	21 忍耐強い	2.25 *	理	2.97 ** 理
	22 心の広い	4.46 **	理	4.55 ** 理
	23 頭のよい	4.50 **	理	5.70 ** 理
	24 明るい	2.87 **	理	3.58 ** 理
	25 暖かい	5.65 **	理	4.14 ** 理
	26 誠実な	3.68 **	理	0.28 <i>ns</i>
	27 健康な	7.88 **	理	7.90 ** 理
	28 素直な	3.91 **	理	1.38 <i>ns</i>
	29 自分の生き方のある	3.22 **	理	2.04 * 理
	30 視野の広い	5.30 **	理	0.83 <i>ns</i>
平均	7.72 **	理	5.67 ** 理	
その 他の 特性	31 顔がいい	5.25 **	理	8.06 ** 理
	32 スタイルがいい	5.19 **	理	8.29 ** 理
	33 趣味が多様である	2.11 *	理	0.07 <i>ns</i>
	34 熱中できる趣味がある	0.93 <i>ns</i>		1.00 <i>ns</i>
	35 経済的に余裕がある	4.69 **	理	3.09 ** 理
	36 世界情勢に関心がある	1.86 <i>ns</i>		0.98 <i>ns</i>
	37 先祖を大切に思っている	2.78 **	理	2.28 * 理
	38 ボランティア活動	1.70 <i>ns</i>		0.35 <i>ns</i>
	39 料理が得意	2.50 *	理	5.55 ** 理

注1) 上表の結果は、全て対応のない *t* 検定のものであり、自由度は全て276である。また上表の *t* 値は絶対値である。

注2) 列見出しにおける(男)、(女)は、それぞれ男性データ、女性データを示す。

注3) 各 *t* 検定において、アピール得点の方が大きかった場合には「ア」と、理想得点の方が大きかった場合には「理」と記した。

注4) \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$  (両側検定)

表4 現実得点と理想得点の *t* 検定結果(性ごと)

特性	現実得点(男)と理想得点(女)の比較		現実得点(女)と理想得点(男)の比較	
	<i>t</i> 値	<i>p</i>	<i>t</i> 値	<i>p</i>
男性 特性	1 冒険心に富んだ	6.23 **	理	1.29 <i>ns</i>
	2 たくましい	11.27 **	理	5.42 ** 現
	3 大胆な	3.84 **	理	0.50 <i>ns</i>
	4 指導力のある	5.50 **	理	1.50 <i>ns</i>
	5 信念を持った	6.32 **	理	4.89 ** 理
	6 頼りがいのある	16.04 **	理	1.85 <i>ns</i>
	7 行動力のある	10.71 **	理	2.50 * 理
	8 自己主張のできる	6.87 **	理	4.98 ** 理
	9 意志の強い	6.72 **	理	4.17 ** 理
	10 決断力のある	10.90 **	理	5.65 ** 理
平均	12.77 **	理	2.96 ** 理	
女性 特性	11 かわいい	7.60 **	理	23.18 ** 理
	12 優雅な	1.30 <i>ns</i>		9.36 ** 理
	13 色気のある	2.87 **	理	15.17 ** 理
	14 献身的な	1.36 <i>ns</i>		4.61 ** 理
	15 愛嬌のある	6.05 **	理	7.17 ** 理
	16 言葉使いのていねいな	1.03 <i>ns</i>		3.04 ** 理
	17 繊細な	3.79 **	現	0.66 <i>ns</i>
	18 従順な	0.21 <i>ns</i>		0.56 <i>ns</i>
	19 静かな	5.74 **	現	0.98 <i>ns</i>
	20 おしゃれな	8.61 **	理	9.96 ** 理
平均	3.83 **	理	12.41 ** 理	
人間 性 特性	21 忍耐強い	4.39 **	理	1.48 <i>ns</i>
	22 心の広い	11.41 **	理	11.00 ** 理
	23 頭のよい	5.99 **	理	8.40 ** 理
	24 明るい	5.98 **	理	6.82 ** 理
	25 暖かい	11.09 **	理	10.61 ** 理
	26 誠実な	9.17 **	理	4.47 ** 理
	27 健康な	5.85 **	理	3.45 ** 理
	28 素直な	4.89 **	理	6.50 ** 理
	29 自分の生き方のある	7.35 **	理	5.51 ** 理
	30 視野の広い	10.25 **	理	6.74 ** 理
平均	13.38 **	理	10.96 ** 理	
その 他の 特性	31 顔がいい	9.44 **	理	16.29 ** 理
	32 スタイルがいい	7.86 **	理	18.60 ** 理
	33 趣味が多様である	3.51 **	理	4.84 ** 理
	34 熱中できる趣味がある	1.71 <i>ns</i>		4.79 ** 理
	35 経済的に余裕がある	4.97 **	理	2.23 * 理
	36 世界情勢に関心がある	0.66 <i>ns</i>		1.41 <i>ns</i>
	37 先祖を大切に思っている	0.32 <i>ns</i>		0.53 <i>ns</i>
	38 ボランティア活動	2.89 **	理	1.57 <i>ns</i>
	39 料理が得意	4.25 **	理	12.69 ** 理

注1) 上表の結果は、全て対応のない *t* 検定のものであり、自由度は全て276である。また上表の *t* 値は絶対値である。

注2) 列見出しにおける(男)、(女)は、それぞれ男性データ、女性データを示す。

注3) 各 *t* 検定において、現実得点の方が大きかった場合には「現」と、理想得点の方が大きかった場合には「理」と記した。

注4) \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$  (両側検定)

女とも適切でないということができただろう。男女とも健康であることをよりアピールした方が効果的であると思われる。一方、2 つだけではあるが、アピール得点の方が大きかった特性が存在した。①における「優雅な」、「静かな」という特性である。男性はこれらの特性に関して女性が求める以上のアピールをしているということができただろう。

**現実得点と異性の理想得点の比較** 各特性に関する男性の現実得点と女性の理想得点の比較 (①)、女性の現実得点と男性の理想得点の比較 (②) を行ったところ、どちらにおいても現実得点よりも異性の理想得点の方が大きい特性が多かった (表 4)。これは男女とも各特性に関する現実の水準が、異性が望んでいる水準に達していないことを意味している。①に関して、特に大きな差異が見られたのは ( $t$  値が大きかったのは)、「頼りがいのある」、「心の広い」、「たくましい」、「暖かい」という特性であった。これらの特性に関しては、男性の現実の水準は女性の理想の水準よりもずっと低いということができただろう。また②に関して、特に大きな差異が見られたのは ( $t$  値が大きかったのは)、「かわいい」、「スタイルがいい」、「顔がいい」、「色気のある」、「心の広い」という特性であった。これらの特性に関しては、女性の現実の水準は男性の理想の水準よりもずっと低いということができただろう。特に「かわいい」という特性に関する女性の現実 ( $M=1.55$ ) と男性の理想 ( $M=3.45$ ) のずれは大きかった。一方、現実得点の方が理想得点よりも大きい特性も存在した。①の比較における「繊細な」、「静かな」という特性、②の比較における「たくましい」という特性である。現代においては、男性は女性の理想に比べておとなしすぎ、女性は男性の理想に比べてたくましすぎるのかもしれない。

### まとめと今後の課題

分析 1 の結果から、全体的に男性は男性性特性を、女性は女性性特性をアピールしたいと考える傾向が大きく、また男性は女性に女性性特性を、女性は男性に男性性特性を求める傾向が大きいたことが示唆された。すなわち、男性は男らしさを、女性は女らしさアピールしたいと考えており、実際、男性は女性に女性らしさを、女性は男性に男性らしさを求めているといえる。一方で、現実自己に関しては男性性特性と女性性特性における男女の差はそれほど顕著でなかった。このような結果から、「男女とも現実の特性に顕著な差はないが、異性にはその性に一致した特性を求めており、異性の理想に応じたアピールしたいと思っている」ということができただろう。また分析 2 では、「男性 (女性) がアピールにおいて重視する特性の順番」と「女性 (男性) が重視する異性の特性の順番」が非常に類似していることが明らかとなった。このことは、男女とも異性が重視する特性の種類をよく理解していることを示唆している。分析 3 では、全体的に、現実得点よりもアピール得点の方が、またアピール得点よりも理想得点の方が大きい傾向があることが明らかとなった。この結果から、「男女とも現実にもっている以上の水準で各特性をアピールしたいと考えているが、異性から求められている水準はさらに高い」ということが示唆される。男女とも相手に求める理想が高すぎるのかもしれない。特に、「頼りがいのある」という特性に関する男性の現実得点と女性の理想得点、「かわいい」という特性に関する女性の現実得点と男性の理想得点の差は大きかった。

本研究の結果を総合的に考察すると、男女ともおおよそ適切なアピールをしているということができらる。ただし男女ともいくつかの特性に関しては、誤ったアピールを行っており、それらに関しては是正する必要があるといえる。特に「健康な」という特性に関するアピールの程度は男女とも不適切であった。男女ともこの特性のアピール得点は現実得点よりも低かった（すなわち積極的にアピールしたいと考えていなかった）が、実際には男女ともこの特性を異性に強く求めていた。健康であることは異性を魅了する重要な特性であるといえるらる。

最後に今後の課題を挙げておきたい。今後は、まず「望ましくない性格特性」に関する現実の程度を明らかにしていく必要があるらる。大学生はどの程度望ましくない特性（例えば、暗い、がさつな、冷たい）を持っており、また異性のそのような特性をどの程度がまんしてもよいと考えているのらるか。本研究の主要な目的はアピールと理想の比較をすることであったため、望ましい性格特性あるいはニュートラルな性格特性のみを用いた（望ましくない特性をアピールしたいと考える人はいないらると思われたため、そのような特性を加えることはしなかった）が、今後はこのような点を検討していく必要があるらる。また、被調査者を現実像によって類型化し、それぞれの種類の被調査者がどのような特性のアピールを多用するのら、どのような異性を望むのらを明らかにする研究も必要であらる。このような研究によって、恋愛関係形成時のアピールの現状をより詳細に明らかにしていくことができらると思われらる。

## 引用文献

- 深沢道子・篠崎信之・越川房子 1991 嫉妬・羨望に関する基礎的研究（I）大学生の恋愛嫉妬について 日本心理学会第 56 回大会発表論文集, 650.
- 飛田 操 1999 恋愛関係 中嶋義明（監修） 心理学辞典 有斐閣 p.50.
- 樋口匡貴・磯部真弓・戸塚唯氏・深田博己 2001 恋愛関係の進展に及ぼす告白の言語的方策の効果 広島大学心理学研究, 1, 53-68.
- 伊藤裕子 1978 性役割の評価に関する研究 教育心理学研究, 26, 1-11.
- 栗林克匡 2000 恋愛における告白時の状況に関する研究 日本社会心理学会第 41 回大会発表論文集, 396-397.
- 松井 豊 1993 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64, 335-342.
- 松井 豊 2000 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会第 41 回大会発表論文集, 92-93.
- 松井 豊・江崎 修・山本真理子 1983 魅力を感じる異性像—同性の推測と実際とのズレ— 日本社会心理学会第 24 回大会研究発表論文集, 44-45.
- 鳴島 信 1994 大学生男女の恋愛行動と失恋行動 日本社会心理学会第 38 回大会発表論文集, 26-29.
- Rubin, Z. 1970 Measurement of romantic love. *Journal of Personality and Social Psychology*, 16, 265-273.
- 菅原健介 2000 恋愛における「告白」行動の抑制と促進に関わる要因—異性不安の心理的メカ

ニズムに関する一考察－ 日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 230-231.

Sternberg, R. J. 1987 Liking versus loving: A comparative evaluation of theories. *Psychological Bulletin*, 102, 331-345.

詫摩武俊 1961 どんな性格の男性が女性に好まれるか／どんな性格の女性は男性に好まれるか  
千輪 浩 (監修) 青年心理学 (改訂版) 誠信書房 p.104.

詫摩武俊 1973 恋愛と結婚 依田 新・大西誠一郎・斎藤耕二・津留宏・西平直喜・藤原喜悦・  
宮川知彰 (編) 現代青年の性意識 Pp.141-193.

詫摩武俊 1986 青年の心理 (改訂版) 培風館

Walster, E., Aronson, V., Abrahams, D., & Rottmann, L. 1966 Importance of physical attractiveness in dating behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 4, 508-516.